脚　　本　　名	#私のマスクの外し方
作　　者　　名	菊本亘孝と岸根高校演劇部
上 演 学 校 名	県立岸根高等学校
あ　ら　す　じ	緊急事態宣言の発令を受け、篠原高校は入学式の翌日からオンライン授業となり、生徒は自宅で授業を受けていた。最初は戸惑っていた生徒たちだったが、次第にオンライン授業にも慣れていき、自然と仲のいいグループがクラス内で出来上がっていた。そんなとある日のオンライン授業。
作 者 連 絡 先	kikumoto@pen-kanagawa.ed.jp kick.book.0302@gmail.com　（どちらも菊本宛）
備　　考	第 60 回大会

＃私のマスクの外し方（創作）

作：菊本亘孝と岸根高校演劇部

登場人物

中島サキ
小森みゆき
加藤先生
小森の母親
モブ１・声１
モブ２・声２
モブ３・声３
モブ４・声４
モブ５・声５
モブ６・声６
モブ７・声７
News の声
もふまる

作者注

・モブと声はわけることも可能です。また、サキ・みゆき以外が兼ねることも可能です。

様々な世界　イス（立方体の箱）は様々な面を向いている。
イスの座面は「白（現実の世界）」、側面はそれぞれ「青（Twitter）」「茶（オンライン授業）」「緑（LINE）」「灰（オフライン）」に塗られている。
舞台上にはネット上に散らばる無数のつぶやきたち。
誰かが放った言葉が誰かの言葉の上に降り積もる。
人はその言葉の上を歩み続けている。
誰かは楽しい日常の喜びを、誰かは陰鬱とした日常の不安を、誰かは誰かに向けた言葉を、誰かは誰にも向けていない独り言をつぶやいている。
しばらく様々なつぶやきが交差する。

声１　おはよう。
声２　雨やば。
声３　最悪、コンタクト落とした。
声４　誕生日おめでとう。
声５　ハンバーグ食べたい。
声６　うわ、しんど。
声７　誰か遊ぼうよ。
声１　ねみー。
声２　マスク暑い。
声３　口裂け女？
声４　わがままにもほどがあるだろ。
声５　え、明日テスト？
声６　嬉しすぎてはげそう。

小森が不安げに出てくる。

小森　私は、コロナが流行って、少し良かったって思う。だって・・・。
小森の言葉は途中でかき消されてしまって聞き取れない。
小森の言葉も他の言葉と同じように舞台上に積み重なっていく。
小森が不安げに去っていく。
様々なつぶやきが聞こえて消えていく。

声７　トレンド入りおめでとう。
声１　進路どうしよ。
声２　ひゃっはー！
声３　手洗い、消毒しっかりしましょう。
声４　ポマードポマード。

声５　うける。
声６　骨折れたわ。
声７　最近眠れないんだよね。
声１　バイトで褒められた。
声２　車掌さんの声かわいすぎ。
声３　あいつ、まじ？。
声４　めんどくさい。
声５　最高かよ。
声６　遊園地いきたい。
声７　いつまで続くの。

照明変化。
篠原高校は入学式の翌日からオンライン授業となり、生徒は自宅で授業を受けていた。最初は戸惑っていた生徒だったが、次第にオンライン授業にも慣れていき、自然と仲のいいグループがクラス内で出来上がったようだ。
そんなとある日のオンライン授業。
モブ２～６が入ってくる。少し遅れてサキ、モブ１が入ってくる。
イスに座るときに「茶（オンライン授業）」を客席側に向ける。
※以降、場面が変わるたびにイスの向きを変える。

オンライン授業　登場人物はヘッドセット・イヤホン等を身につけている。
モブ　おはよー。
モ４　あれ、これさぁ、画面見えてる？
モ２　見えてるよ。
モ４　良かったー。
モ３　一時間目って何だっけ？
モ６　現社かな。
モ３　うわ、めんどくさ。
サキ　おはよー。
モブ　おはよ。
モ１　おはよう！
サ・モ　おはよう。
モ１　先生はまだ？
サキ　そうみたい。
モ１　セーフ。
サキ　もう少し早く起きたら？
モ１　いやー、学校に行かなくていいかと思うと、さ。
モ２　わかるわぁ。

サキ　なにそれ。
モ１　いや、中学まではちゃんと朝起きてたよ。でもねぇ。
モ２　オンライン授業だもんねー。
サキ　だから寝間着のままなの？
モ１　あ、バレた？
サキ　カメラオンになってるし。
モ１　まじで？
サキ　うん。かわいいパジャマが写ってますよー。
モ１　でしょー？
サキ　でしょじゃないし。寝癖もすごいし。
モ２　まぁまぁ。
サキ　先生言ってたじゃん、オンライン授業だけど原則カメラオン、マイクオンでやっていきますよって。
モ１　原則でしょー。ルールは破るためにあるもんだよ。
サキ　怒られても知らないよ。
モ１　へーきへーき、カトセン、パソコン苦手だし、適当な専門用語言って逃げきるから。

サキ、クラスメイトと他愛もない会話をしている。
小森が授業にログインする。

小森　・・・。

小森も自分の席に静かに座る。

サキ　あ、小森さん、おはよう。
小森　！
サキ　あのさ・・・。

チャイムの音が鳴り響く。

サキ　（群がるモブに向かって）ほらほら、朝のHR始まるよ。

先生が授業にログインする。
何かを言っているようだが、その声はみんなには聞こえていないようだ。

モ３　あれ？先生どうしたの？
モ４　パソコン壊れてんじゃね？
モ１　まじ？

サキ　もしかして、マイクオフにしたまま喋ってない？
モ２　かも。

モブは先生への文句を言っているが、決して非難するような口調ではなく、いつものことだと確認するような雰囲気。

モ２　サキ、なんとかしてよ。
サキ　私？
モ２　だって学級委員でしょ。
サキ　そういうときばっかり使って・・・。
モ２　サーセン。

サキは大きな声と手振りを使って先生のマイクがオフになっていることを伝えようとする。

サキ　先生、マイクがオフになっていると思います。
先生　・・・。
モ２　サキ、もう一回！
サキ　先生！マイクがオフになってます！全然、先生の声が、聞こえて、きません！
モ３他　声でかっ。
サキ　ごめん。つい。

先生はサキやクラスメイトの様子に気づかず朝の HR を進めていく。

サキ　先生全然気づいてなくない？
モ１　みたいだね。
モ２　あれじゃね？マイク自体が入ってないから、こっちの声も聞こえてないんじゃね？
サキ　そうっぽいね。
モ４　じゃ、このまま自習ってことで。

小森が自分のノートに「先生のマイクが入っていないみたいです」と書き、先生に伝えようとする。

小森　「先生のマイクが入っていないみたいです」

先生、ようやく自分のマイクが入っていないことに気づき、セッティングをやり直す。

先生　ごめんごめん、マイク抜けちゃってた。
モ３　せんせーい、ちゃんとしてくださいよ。
先生　いやいやー、これはみんなが気づくかどうか試してたんだよ。

モ４　うちらは気づいてましたよ。
先生　ほんとに？
モ１　サキのビッグボイス聞こえなかったんですか？
サキ　その言い方恥ずかしいんだけど。
先生　いやぁ、ちょっとこっちまでは聞こえなかったみたいだけどぉ。
モ２　ほら、サキ、もう一回言ってよ。
サキ　やだよ。
先生　中島、ありがとね。
サキ　いえ。
先生　小森もありがとね。

先生が小森の名前を出した瞬間、一斉にクラスメイトの視線が小森に集まる、ような気がする。

小森　いえっ、その・・・。はい。

小森は緊張した様子で受け答えをする。
全体に聞こえるか聞こえないか、微妙なボリュームで会話をするモブ。

モ５　黙っていれば良かったのに。
モ６　ね、そしたら面白かったのに。
小森　・・・。
サキ　・・・。

先生は自分のマイクの調子を確かめており、その会話には気づいていない。

先生　はい、そしたらもう一回朝のHRをやりたいと思います。じゃあ、中島、号令お願い。
サキ　気をつけ、礼。
全員　おはようございます。
先生　おはよう。オンライン生活も１ヶ月経ちましたが、みなさん調子はどうですか？
モ４　問題ありませーん。
モ３　むしろ、先生こそ調子はどうなんですか？
先生　私？私は、一刻も早くみなさんに会いたいですねー。
モ３他　おー。
モ３　それって単にパソコンが嫌いってだけじゃないんですかー。
先生　失礼な。(カメラがオフになっているモブに向かった)あ、カメラオフになってる。だめですよ、カメラはオンにしておいてくれないと。
モ１　すいません、なんか家のWi-FiとBluetoothとブラウザとインターフェースの調子が悪くて。
先生　・・・そ、そう。それなら仕方ないか。

モ１　すいませーん。
先生　それじゃあ、今日も時間割通りです。頑張っていきましょう。中島、号令。
サキ　気をつけ、礼。
全員　ありがとうございました。

モブ１２５６、ログアウトする。

LINE（トーク）　それぞれ向き合う。

サキ　小森さんよく気づいたね。
小森　え？
サキ　さっきの先生のやつ。
小森　あ、うん、ありがと。
サキ　あーあ、私が先に気づいていればビッグボイスとか言われなくてすんだのに。
小森　あ、ご、ごめん。
サキ　違う違う、別に小森さんを責めてるわけじゃないって。私は機転がきかないなぁと思って。
小森　そんなことないと思うよ。
サキ　そう？
小森　うん。
サキ　ふふ、ありがと。
小森　やっぱり、ああいう場面だったら、黙って先生に何も言わないほうがいいのかな。
サキ　え？
小森　いや、なんか、そんな風に言ってる人もいて。私空気読めないから。
サキ　気にする必要ないよ。
小森　・・・。
サキ　小森さんがやってなかったら私がやってたと思うし。
小森　・・・そう。
サキ　うん。さっき言ってた子も、悪い子たちじゃないけど、やっぱり直接顔を見ていないと、色々言っちゃうよね。
小森　私は、でも、顔見ながら話すのは苦手だから。
サキ　へー。
小森　ごめん。
サキ　いや、怒ってないって。あ、そういえばさ、もふまるの件なんだけど・・・。

二人の話にモブ１が入ってくる。
押し出されるように話題から飛ばされる小森。

LINE（トーク）　それぞれ向き合う。

モ１　サキ、課題やった？

サキ　え、課題？やったよ。
モ１　コピーさせて。
サキ　まじ？もうすぐ授業始まるよ。
モ１　いけるいける。
小森　あ、じゃあ、また。
サキ　小森さん、ごめんねー。

チャイムの音。
時間経過。
帰りのHR。

オンライン授業

先生　最近課題の提出状況が悪いって職員室でも話題になっています。最初の頃はあんなにしっかり出してくれていたのに。
モ３　やり始めは珍しかったからしっかりやってたけど。
モ４　こう長引くとねえ。
先生　その辺については申し訳ないと思うけど。授業の代わりにやってるわけだし、ちゃんと出してくださいね。
モ２　先生、提出物って成績に入るんですか？
先生　一応、そのつもりだけど。
モ１　まじ？
モ５　でも、うちのWi-Fiまじで調子悪いんですけど。
モ６　うちも、パソコン家族と共用なんですけど。
先生　そういう場合は、考慮されると思います。
モ５　だったら、課題やんなくてもばれなくね？
先生　そういうことじゃないの。オンライン終わってから困ることになるから、しっかりやってください。
モ５　へーい。
先生　じゃあ、今日はこの辺で終わりにしましょう。中島、号令よろしく。
サキ　気をつけ、礼。
全員　ありがとうございました。
先生　また明日ねー。

モブ３４５６、何名か早々にログアウトする。

先生　あ、ごめん。
全員　！

先生、絶妙なポーズでフリーズする。

先生　・・・。
モ１　カトセン、また止まってる。
モ２　え、これってもうHR終わったんだよね。
モ１　じゃない？だって、挨拶してたし。
サキ　でも、さっき加藤先生何か言いかけてたよね？
モ１　え、そう？
サキ　何か連絡あったのかな。
モ１　さぁ。
モ２　じゃあ、とりあえず、このまま雑談タイムということで。
モ１　私この後バイトあるんだけどなぁ。
サキ　バイト忙しそうだよね。
モ１　テイクアウトとデリバリーですげー忙しい。日本国民頭おかしくない？
サキ　私もデリバリー頼んじゃってますね。ごめーん。
モ１　その分バイト代稼げていいんだけどさ。
モ２　うちは逆。全然シフト入れてくれないんだけど。
サキ　居酒屋だっけ？
モ２　そう。
モ１　この状況で、なんで居酒屋なんか応募したの？
モ２　近かったから。
サキ　あ、でも、最近、うちの近くの居酒屋、お弁当始めてたよ。
モ１　うちの近くも。
サキ　ということは、これから忙しくなるんじゃない？
モ２　どうかなぁ。
サキ　てかさ、いつまで続くんだろうね、オンライン授業。
モ１　当分このままじゃない？
モ２　私最近全然外出してないから、めちゃくちゃ太ったんだけど。
サキ　え、うそー。
モ２　フィルターフィルター。
モ１　うちらってJKなわけじゃん。オンラインで高校終わるってやばくない？
サキ　いや、さすがに3年間ずっとこのままはないでしょ。
モ２　行事とかってどうなるのかな？
サキ　このままだと延期か中止？
モ２　中学もそうだったじゃん。まじつまらんし。
サキ　そうだね。
モ１　私は彼氏がほしい。
モ２　わたしもー。

モ１　サキは？
サキ　いや、まぁ、私はぼちぼち。
モ２　え、もしかして。
サキ　いないよ、いないけど。
モ１　何その端切れの悪さ。
サキ　なんていうか。ほら、マスクもつけてるし、イケメンかどうか判断に困るというか。
モ１　わかるわぁ。私のバ先にちょっとかっこいい系の先輩いるんだけど、マスク外したところみたことないからさ。
モ２　どうする？マスクの下めっちゃブサイクだったら。
モ１　どういうこと？
モ２　私キレイ？みたいな？
モ１　なにそれー。
モ２　いや、でも、そうだったら残念だわー。
モ１　まじショックじゃね。
モ２　ね。
サキ　・・・。
モ１　逆にうちらもそう思われてるってことじゃね？
モ２　うそ。とりあえず盛っておくしかないわ。
モ１　家で盛っても意味ないっしょ。
モ２　たしかに。
モ１　でもさー、まじで彼氏できたときに、マスク外して幻滅されたらやばいよね。
モ２　立ち直れないっすねー。
モ１　サキは？
サキ　え。あ、私もそうかな。マスク外したくないな。
モ１　えー、サキかわいいじゃん。スタイルいいし。
サキ　そんなことないよ。
モ２　ちょっとマスク外してみてよ。
サキ　無理無理。メイクしてないし。
モ１　だよね。マスクしすぎてメイクの仕方忘れちゃったし。
モ２　わかるー。
モ１　やべ、そろそろバイト行かなきゃ。
サキ　がんばってねー。

モブ１がログアウトする。
同時に、先生のフリーズがとける。

先生　あれ、まだ残ってる。
サキ　先生！？

先生　え、どうしたの？
モ２　先生、またフリーズしてましたよ。
先生　え、ほんと？
サキ　最後、ごめんって言ったところで止まっちゃったんで、何か連絡あるのかなぁと思って待ってたんです。
先生　あ、あれね。ごめん。明日は土曜日だからお休みだったね、って言おうと思って。
モ２　しょーもな。
サキ　じゃあ、HRは終わりですか？
先生　もちろんもちろん。
モ２　なんだよぉ。先生、さよーならー。

モブ２がログアウトする。

サキ　先生はどうかしたんですか？
先生　職員室戻ったらさ、「加藤先生、オンライン授業切り忘れてますよ」って注意されちゃってさ。
サキ　それで確認しに来たんですね。
先生　そうそう。それじゃあ、もう切っちゃうから。
サキ　はーい。

サキがログアウトする。
先生がオンライン授業を切ろうとする。

小森　先生。
先生　小森。どうしたの？
小森　課題の件で聞きたいことがあって。
先生　なに？
小森　問６なんですけど、回答しようと思ったら入力できなくなってて。
先生　うそ？
小森　数字しか入らないみたいです。
先生　ごめん、後で直しておくよ。
小森　ありがとうございます。
先生　あ、そうだ。最近、調子はどう？
小森　えっと、大丈夫です。
先生　そっか。なんかあったら言ってね。
小森　ありがとうございます。
先生　早くみんなに会えるといいねぇ。

小森の脳裏に今朝のモブの言葉が思い出される

モ５　黙っていれば良かったのに。
モ６　ね、そしたら面白かったのに。

小森は少し暗い気持ちになる。

小森　・・・そうですね。

小森のスマホにサキから連絡が入る。

小森　中島さん。
先生　中島がどうかしたの？
小森　いえ・・・、その・・・。
先生　中島と仲いいの？
小森　仲いいというか、よく連絡はしてます。
先生　そっか。早く会えるといいねぇ。
小森　・・・そうですね。
先生　じゃあ、そろそろ切っちゃっていい？
小森　あ、すいません。

オンライン授業が切られる。

LINE（ビデオ通話）　ビデオ通話なので、あたかもその場で会話をしているような感じで。

サキ　今話しても大丈夫？
小森　あ、うん。
サキ　朝の話、途中で終わっちゃったからさ。
小森　もふまる？
サキ　そう。私ね、ライブ当選してた！
小森　私も。
サキ　え、ホント！？良かったぁ。私だけ当選したら何て言ったらいいか考えてたんだよ。
小森　二人そろって当選するなんて。
サキ　すごいよね、やっぱりこのご時世だし申し込みする人少なかったのかも。
小森　本当にやれるのかな？
サキ　うーん、どうだろ。でも、一応案内はしているみたいだし、やるんじゃない？てか、せっかく当選したんだし、やってもらわなくちゃ困る。
小森　そうだね。
サキ　でも、ホント良かった、小森さんも当選してて。
小森　そうだね。

サキ　朝もさ、ライブの件言おうと思った瞬間に、「あ、もし小森さん落選してたらどうしよ」とか考えちゃってさ。
小森　そうだったんだ。
サキ　そしたら、タイミングよく他の子から連絡きたからさ。
小森　・・・友達多いよね。
サキ　クラスの？一度も会ったことないけどね。
小森　どうやったらそんなに友達できるの？
サキ　どうやってって言われてもなぁ。Twitterで検索してみたりとか。
小森　Twitter？
サキ　あれ、言ってなかったけ？
小森　うん。
サキ　ごめんごめん。すっかり話した気になってた。えっとね、「saki_mofumofu」で調べたら出てくると思うよ。
小森　もふもふ？
サキ　高校に入ってから始めたから。
小森　そうなんだ。
サキ　うち、お母さんが厳しくてさ。そういうのは高校入ってからじゃなきゃダメだって言われて。
小森　・・・。
サキ　小森さんは？
小森　え？
サキ　Twitterやってないの？
小森　私は、一応やってるけど。
サキ　えー、じゃあ、アカウント教えてよ。
小森　いや、その、オタ活がひどすぎて。
サキ　なにそれー。
小森　みると、多分ひいちゃうから。
サキ　えー、ずるーい。
小森　ごめんなさい。
サキ　・・・しょうがない。もう少し仲良くなったら教えてもらうとするか。
小森　ごめんね。
サキ　いやー、でも、まさかクラスに「もふまる」を知っている人がいるとは思わなかったよ。
小森　私も。
サキ　中学校でも布教活動してたんだけど、なかなか好きになってくれなくてさ。そしたら、小森さんの自己紹介で「もふまる」の名前が出たとき驚いちゃったよ。
小森　リアクション大きかったよね。
サキ　そうだよ、しかも、話してみたら私より詳しかったし。
小森　そんなことないよ。
サキ　あーあ、まさかあれから学校が休みになるとは・・・。

小森　そうだね。
サキ　学校いつから始まると思う？
小森　うーん。
サキ　もう5月入ったじゃん？6月くらいからは始まるかな。
小森　私はこのままでも悪くないと思うけど。
サキ　え、そう？
小森　うん。
サキ　小森さんは私に会いたくない、と。
小森　違う違う、そうじゃなくて。
サキ　ほんとにぃ？
小森　私、すごい人見知りだから。
サキ　ぽいよねぇ。
小森　顔見ながら話すの苦手だし。
サキ　あれ、今は？
小森　今は、画面ごしだから平気、かな。
サキ　そっか。
小森　うん。
サキ　私は、ちょっと飽きてきたかなぁ。
小森　そう？
サキ　授業はオンラインでもなんとかやれるし、わからなかったらリピートできるから楽なんだけど。
小森　うん。
サキ　さすがにちょっとねぇ。
小森　私は今の授業の感じ好きかも。いきなり指されたりするとなんて言っていいのかわからなくなるし。
サキ　たしかに。
小森　あ、でも、加藤先生のフリーズが見れなくなるのは・・・。
サキ　加藤先生、いっつもフリーズしてるよね。あれ何なんだろうね。電波とか出てるんじゃない？
小森　そうかも。
サキ　でもさぁ、小森さん高校生になったらやりたいこととかなかったの？
小森　え？
サキ　私はさぁ、バイトもしたかったし、行事も楽しみにしてたし、部活もやりたかったし。
小森　・・・。
サキ　篠高ってさ、行事にすごい力入れてるって言ってたじゃん？
小森　うん。
サキ　体育祭とか文化祭とかやりたかったんだけどなぁ。
小森　まだ、どうなるかわかんないよ。
サキ　まぁねぇ、そうだけどさぁ。
小森　・・・私も、高校でやりたいことあったかも。

サキ　なになに？
小森　部活。
サキ　何部？
小森　吹奏楽部。
サキ　あー、なんかわかる。
小森　けっこう中学校では頑張ってたから。
サキ　楽器は何やってたの？
小森　フルート。
サキ　おー。じゃあ、将来はそっち系にすすむの？
小森　うん。
サキ　まじ？
小森　一応、なれたらいいなってくらいで。
サキ　・・・すご。
小森　すごくないよ。
サキ　すごいよ。私はまだ将来のことなんかなーんにも考えてないし。高校でもとりあえず楽しくやれればいいやって感じだし。
小森　それも大事じゃない？
サキ　かなぁ。
小森　そうだよ。
サキ　この前もお母さんに将来のこと聞かれちゃってさ。まだ高校入ったばっかりだっていうのに。
小森　私もよく心配されるよ。
サキ　小森さんみたいにやりたいことが見えているといいんだけどなぁ。
小森　きっとすぐに見つかると思うよ。
サキ　だといいんだけど。そうすると、やっぱり学校始まんなくちゃだめだね。
小森　そうだね。
サキ　まぁ、学校始まってもマスクは続いてほしいかも。
小森　え？
サキ　・・・私さぁ、マスク外した自分の顔超嫌いなんだよね。
小森　そうなの？
サキ　うん。鏡見るのも嫌。小学校からずっとマスクつけてるよ。
小森　美人なのに。
サキ　そんなことないよ。
小森　もったいない。
サキ　まぁ、色々あったわけですよ。
小森　色々って？
サキ　聞きたい？
小森　うん。
サキ　でもなあ、小森さん、Twitterアカ教えてくれないからなぁ。

小森　ごめん。
サキ　うそうそ。ま、ホント些細なことなんだけどさ。小学校で「口裂け女」って流行らなかった？
小森　うーん。
サキ　実は私、けっこう口が大きいの。
小森　へー。
サキ　お母さんは「かわいいかわいい」って言ってくれてたから気にしてなかったんだけど。あるとき、「サキ、口大きすぎん？もしかして、口裂け女なんじゃねー」って言われちゃって。私も「そんなことない」って言えれば良かったんだけど、いきなり言われちゃってビックリしちゃって。しかも、それ聞いた周りの子も「うそ？まじで？」みたいな感じになっちゃって。
小森　・・・。
サキ　言った子にしてみれば、場を盛り上げるために言ったんだと思うんだけど。なんか、それ以来、マスク外して自分の顔を人前に晒すのが怖くなっちゃってさ。
小森　そうなんだ。
サキ　いや、なんか、そこまで重い感じじゃないんだけどさ。
小森　・・・。
サキ　でも、なんとなく嫌っていうか。そういうのない？
小森　わかる気がする。
サキ　でしょ。今だったら言ったヤツぶっとばすんだけどさ。
小森　ふふ。
サキ　当時の私は、幼くか弱い存在でした。
小森　そうなんだ。
サキ　悪意のない一言って、言われた方は意外と傷つくんだよね。
小森　・・・私も、一言多いってよく言われる。
サキ　そう？じゃあ、気をつけないとねー。
小森　うん。

二人が会話を続けていると小森の母親が扉をノックしてくる。

母親　みゆき？今いい？

小森は扉ごしに返事をする。

小森　今友達と話しているから。

母親は扉の前で待っている。

サキ　お母さん？
小森　うん。

サキ　あ、じゃあ、今日はこの辺で。
小森　え、いいのに。
サキ　学校始まったらもっと色々話せるといいね。
小森　あ、うん。
サキ　そうだ、直接会ったらさ、名前で呼び合おうよ。
小森　え？
サキ　私、友達は名前で呼び合う主義だから。
小森　友達？
サキ　でしょ？
小森　うん。
サキ　あ、今言うのはなしだからね。直接会ったとき、だからね。
小森　わかった。
サキ　じゃあ、またね。
小森　あ、中島さん。
サキ　ん？
小森　私は中島さんのマスク似合ってると思う。
サキ　え、そう？
小森　うん。別にそのままでいいと思うよ。
サキ　・・・ありがと。じゃあ、またね。

サキ、LINEを切る。その表情は嬉しそう。

小森の部屋（現実）

母親　入ってもいい？
小森　・・・いいよ。

母親が部屋に入ってくる。

小森　なに？
母親　今日の夜ご飯、炊き込みご飯にするから。
小森　わかった。
母親　どう、学校？
小森　今日先生にも同じこと聞かれた。
母親　やっぱり心配だから。
小森　別に、普通。
母親　そう。
小森　何がそんなに心配なの？
母親　中学校のこともあるし。

小森　・・・。
母親　無理しなくていいからね。
小森　無理なんかしてないよ。
母親　なら、いいんだけど。
小森　・・・・。
母親　友達って高校の？
小森　うん。
母親　どんな子？
小森　どんなって。
母親　・・・・。
小森　すごい美人で明るい人。
母親　そう。
小森　うん。
母親　・・・・。
小森　もういいでしょ、ご飯できたら行くから。
母親　わかった。

母親が退出する。
小森は友達ができたこと、それを母親に伝えたことを少しだけ照れくさく感じている。

小森　見てみようかな。

小森はサキの Twitter を検索し、見つける。そこには高校入学から今日までのできごとがつぶやかれている。

現実＋Twitter

サキ　今日から開設しました！サキです！学校のこととか推しのこととかつぶやいていくのでよろしくお願いします！
サキ　#（ハッシュタグ）春から篠高。
サキ　JK になったらバイトできると思ったら、親にダメだって言われた。ありえん。
サキ　明日は入学式！でも、その次の日から当分の間、臨時休校らしい。当分ってどれくらい？
サキ　あー、友達できるかな。まじ不安。
サキ　８組になりました！同じ組の人、仲良くなってください！
サキ　自己紹介で「もふまる」推しの人いた！まじ神！さっそく話しかけちゃった。ドン引きされたかも。
サキ　うちの担任、パソコン苦手すぎ。でも、そこが可愛い。
サキ　周りの友達はバイト始めたらしい。うらやま。
サキ　あー、お金が欲しい。推しに貢ぎたい。ぴえん。

サキの過去のつぶやきに自分のことが書かれていて嬉しくなる小森。

小森はTwitterに今日のできごとを投稿する。

Twitter

小森　推しのライブのチケットが当選しました！ホントに嬉しい！

小森　高校のクラスでも推しの話ができる人がいて、その人も当選してた！

小森　その人は、私と違って明るくて美人で友達も多い人で。正直うらやましい。

小森　どういう生活をしたらあんな風になるんだろ。

小森　あ、その人にTwitterのアカウント聞かれたけど、こんなオタ活まみれのやつは恥ずかしくて見せられない！

小森　でも、「もふまる」については私の方がちょっと詳しいかも。なんちゃって。

小森　直接会って話ができるのはいつになるんだろ。

サキもTwitterに今日のできごとを投稿する。

サキ　私まじで強運。推しチケ当たってました！

小森　中学にはあんまり「もふまる」好きな人がいなかったから寂しかったけど。

サキ　高校になると色々な人がいるもんだ。

小森　この状況だからライブがどうなるかわからないけど。

サキ　せっかくなら。

二人　一緒に行けるといいな！

数日経ったある日のつぶやき。

news　政府はイベントの開催に関するメッセージを発表しました。「国内の感染状況については、爆発的な感染拡大には進んでおらず、引き続き、持ちこたえているものの、都市部を中心に感染者が少しずつ増えているなど、一部の地域で感染拡大が見られるとの分析がありました。今後の見通しとしては、これまでの努力を続けなければ、クラスターの大規模化や感染の連鎖、さらには全国のどこかの地域で患者の急激な増加、いわゆるオーバーシュートが生じる可能性が指摘されています。全国規模の大規模イベント等の開催については、中止、延期、規模縮小等の検討をお願いしてきたところですが、今後は、主催者がこれを踏まえた判断を行う場合には、感染対策のあり方の例も参考にしてください。引き続き、感染拡大の防止に十分留意してください。」とのことです。（※1）

これを受けてライブやコンサートなどの延期・中止のニュースが流れてくる。

「もふまる」のライブも中止となった。

もふ　「もふもふライブ」の開催を楽しみにしてくださっている皆様、誠にありがとうございます。公

演実施に向け慎重に協議、検討を進めてまいりましたが、この度の新型コロナウィルスの感染拡大に伴いお客様の安全を最優先に考慮し、2020年5月29日（金）から開催予定でした「もふもふライブ」を中止とさせていただくことを決定いたしました。本公演を楽しみにお待ちいただいておりました多くの皆様にはご迷惑をおかけすることとなりますが、感染の拡大を収束するべく、このような判断とさせていただきましたので、何卒ご理解を賜りますようお願いいたします。

ニュースを確認した小森とサキ。

現実

小森　うそ？

サキ　まじで？

小森は自分の気持ちをつぶやく。

Twitter

小森　せっかく楽しみにしてたライブが中止になってしまいました。ライブが決まってからずっと楽しみにしてたのに本当に残念です。でも、この状況だと、やっぱり仕方ないことなのかな。これが原因で感染拡大しちゃったら取り返しのつかないことになりそうだし。

つぶやいた後、母親が小森をご飯に呼ぶ。

現実

母親　みゆき、ご飯できたから。

小森　はーい。

小森は自分の部屋から出ていく。

サキはネット上に流れる、この状況を悲観するつぶやきを目にする。

Twitter

声5　ライブ中止らしいよ。

声4　この状況なら中止にして正解でしょ。

声3　まじで最悪。ライブ楽しみに生活してたのに。

声2　いや、感染対策さえすれば問題ないって。

声1　どうせ大人は飲み会とかやってんでしょ。

声7　なんでライブだけ敵視されなきゃいけないの？

声5　だったら、全部のイベント中止にしろって話だよね。

声4　配信すればいいだけの話だから。状況考えろよ。

声3　グッズ販売だけでもしてくれないかな。

声2　コロナまじ鬱陶しいわ。

声1　ホントホント。

そんなときかつて小森がつぶやいたものをネットの住民が見つける。
（舞台上に落ちている小森の過去のつぶやきを拾い上げる）

声７　私は、コロナが流行って、少し良かったって思う。（だって・・・。）

その声は多くの人が同時につぶやいているように聞こえる。
そのうち、小森のつぶやきに対して引用リツイートのように意見が付け足される。
引用リツイートには多くの「イイね」がつき、場が高揚する。

声５　これってさ、まじで不謹慎じゃない？（声４イイね）
声３　それな。
声２　実際に感染している人もいるわけじゃん。（声１イイね）
声５　芸能人にも感染した人いたよね。（声４イイね）
声３　医療従事者に謝ってほしい。（声２イイね）
声１　たしかに。
声５　うち家が飲食店なんだけど、全然お客さん来なくて先月で閉めちゃったから、こういう意見聞くとホントしんどい（声４イイね）
声３　ホントホント。
声２　先輩たちは卒業式もできなくて可哀想だった。（声１イイね）
声全　イイね。イイね。イイね。イイね。イイね。イイね。イイね。イイね・・・。

暗転。
サキも一つの引用リツイートに「イイね」をつける。

サキ　イイね。

静寂。
ご飯を食べ終わった小森が自分の部屋に戻り、スマホを確認する。
現実（小森にサス）
小森　え、なにこれ？

翌日のオンライン授業。
小森は来ていない。
オンライン授業　モブ１～６
先生　今日は特に連絡することはないんだけど・・・。

先生、突然フリーズをする。

モ１　カトセンまたフリーズしてね？
モ２　あ、やっぱり。うちのパソコンでも止まってる。
モ１　今回も絶妙なポーズで固まってるね。
モ２　たしかに。

先生、動き出す。

先生　・・・なので、気をつけるようにしてください。
モ３　先生ー、またフリーズして聞き取れなかったんですけど。
先生　ほんとぉ？なんで私のパソコン止まっちゃうんだろ。他の先生も止まったりする？
サキ　いえ、加藤先生くらいです、止まるの。
先生　おかしいなぁ。
モ４　先生からなんか電波出てるんじゃないですか？
先生　やっぱそっかな。
モ２　先生、さっき何言いかけたんですか？
先生　食べ過ぎには気をつけてねって。
モ２　突き刺さるー。
先生　しっかり運動しましょう。じゃあ、今日はこの辺で。中島、号令。
サキ　気をつけ、礼。
全員　ありがとうございました。

サキはオンライン授業に小森がいないことを少し不思議に思い、小森に連絡をする。

LINE（ビデオ通話）

サキ　やっほー。
小森　中島さん・・・。
サキ　どうしたの？体調悪かった。
小森　あ、うん、ちょっとね。
サキ　そっかぁ。私はてっきりライブが中止になったから休んだのかと思った。
小森　いや、そうじゃなくて。
サキ　ホントショックなんだけど。
小森　・・・。
サキ　めっちゃ楽しみにしてたんだけどなぁ。
小森　そうだね。
サキ　実は今回のが初のライブ参戦だったんだよ。
小森　・・・。
サキ　小森さんとも一緒に行けると思ったのに。
小森　ありがとう。
サキ　てかさぁ、やっぱりコロナきついよね。ライブだけじゃなくて、色々大変みたいだし。

小森　・・・。
サキ　学校だってずっとオンライン授業だし、飲食店もけっこう潰れているところあるみたいだし。
小森　・・・。
サキ　芸能人も仕事なくて大変なんだって。
小森　そう。
サキ　昨日もさ、ネット見てたら色々言ってる人いてさ。
小森　・・・。
サキ　いや、もうさ、まじで勝手なことばっか言ってんなぁって感じで。
小森　・・・。
サキ　コロナが流行って良かったとか言ってる人いたんだよ、信じられる？
小森　！！！
サキ　私、頭にきちゃってさ、思わず不謹慎だって言ってる人の引用リツイート「イイね」しちゃった。
　　普段あんまり「イイね」しないんだけど。
小森　・・・。
サキ　小森さんもそう思わない？不謹慎じゃない？
小森　そう、だね。
サキ　だよねー。まじで信じられない。
小森　ごめん、ちょっと、まだ体調悪いから。
サキ　そうなんだ、ごめんね。
小森　うん。
サキ　じゃあ、またね。お大事に。
小森　・・・。

　小森の脳裏にこの前の言葉が蘇る。
　小森にはすべてが悪意に満ちた言葉に聞こえてしまう。

現実＋Twitter（小森の頭の中）

声７　私は、コロナが流行って、少し良かったって思う。（だって・・・。）
声５　これってさ、まじで不謹慎じゃない？（声４イイね）
声３　それな。
声２　実際に感染している人もいるわけじゃん。（声１イイね）
声５　芸能人にも感染した人いたよね。（声４イイね）
声３　医療従事者に謝ってほしい。（声２イイね）
声１　たしかに。
声５　うち家が飲食店なんだけど、全然お客さん来なくて先月で閉めちゃったから、こういう意見聞くとホントしんどい（声４イイね）
声３　ホントホント。
声２　先輩たちは卒業式もできなくて可哀想だった。（声１イイね）
声全　イイね。イイね。イイね。イイね。イイね。イイね。イイね・・・。

「イイね」が小森を取り囲むようにして迫ってくる。
小森はそれに耐えきれず悲鳴とともにふさぎ込んでしまう。

サキ　イイね。
小森　いやーーーーーーーーーーーっ。

暗転。
小森は友人が「イイね」をしていたことに深く絶望し、心を閉ざしてしまう。
翌日以降、小森はオンライン授業には来なかった。
それからまた少し経った、ある日のオンライン授業。

オンライン授業

先生　この前話した通り、来週から学校が始まります。登校時間は通常より少し遅いし、最初のうちは短縮授業が続くけど、ようやく皆さんに会えそうです。
モ５　長かったなぁ。
モ４　起きれるかな。
モ３　オンラインのほうが楽だったんだけどなぁ。
モ２　先生、テストはどうなるんですか？
先生　オンラインでやったところも含めて、１学期は期末テスト一発勝負になるんじゃないかな。
モ２　えー。
モ１　まじでー。
モ４　現代社会の菊池先生、めちゃくちゃ範囲広いじゃん。
先生　文句を言わないの。
モ３　先生的には、オンラインと実際の授業とどっちがいいんですか？
先生　実際の授業！
モ３　そうなんですか？
モ４　ほら、カトセン、パソコン苦手だし。
先生　そこ、聞こえてますよ。
モ４　すいませーん。
先生　まぁ、確かにオンライン授業は便利だけど、やっぱり直接顔を見て授業をやったほうがやりやすいからね。
モ２　でも、国語の田所先生はずっとオンラインでいいって言ってましたよ。
先生　そういう意見もある。あと、それとね。学校に来てない状態で言うのもアレなんだけど、６月に入ったら、来年の選択科目決めてもらうから。
モ１　まじすか。
先生　まじです。
モ２　だって、ずっとオンライン授業だったんですよ。
先生　それはそうなんだけど。毎年この時期に最初の希望を取ってるから。

モ４　あとで変えられるんですか？
先生　それは大丈夫だと思う。最終的には夏休み明けに決めてもらうから。
モ５　なーんだ、じゃあ問題ないじゃないですか。
先生　そう？なら良かった。しっかり進路についても考えておいてくださいね。というわけで、今週はまだまだオンライン授業が続くので、明日からもしっかりやっていきましょうね。
モ２　はーい。
先生　じゃあ、中島、号令よろしく。
サキ　気をつけ、礼。
全員　ありがとうございました。
先生　はい、さようならー。

モブ５６がログアウトをする。
先生もその場から去っていく。

モ１　あれ、またカトセン切り忘れて行っちゃったんじゃね？
モ３　ホントだ。
モ１　もう、しょうがないですねぇ。
モ２　さっきのカトセンの話だけどさ？
モ４　進路？
モ２　うん、ぶっちゃけどうする？
モ３　なーんもない。
モ１　私もー。
モ３　高校入ってすぐだし、そんな将来のことなんか考えてないって。
モ２　サキは？
サキ　私も、まだ何も考えてないかな。
モ２　だよね。
モ４　そしたら、看護師にでもなろうかな、時給高いみたいだし。
モ３　うそー、めっちゃキツいってニュースで言ってんじゃん。
モ４　えー、じゃあやめた。
モ３　テキトー。
モ１　進路決めてる人とかいんの？
モ３　さぁ。
モ４　とりあえず、今はJKを楽しみたいわぁ。
モ２　あーあ、このオンライン生活もあと一週間か。
モ１　終わるとなると、ちょい寂しいよね。
モ３　そう？私はもう飽きた。
サキ　オンライン、目が疲れるよね。
モ４　わかるー。視力悪くなった気がする。

モ３　今月でWi-Fiの無料期間終わるらしいよ。
モ４　ま？来月からまた制限かかんの？
サキ　ニュースではそう言ってたけど。
モ４　今のうちに、めっちゃダウンロードしておこ。
モ３　てかさ、学校始まる前に、みんなの顔見てみたくない？
サキ　どういうこと？
モ３　いや、だってさぁ、ウチらオンライン授業で家にいるのに、律儀にマスクつけて受けてたじゃん。
モ１　たしかに。
モ２　まじめー。
モ３　どうせ、学校始まってもマスクつけてるわけでしょ？だったら、今のうちにみんなの顔見ておこうよ。
サキ　えー、いいよー。
モ３　家の中なら外しても文句言われないわけだし。
モ４　私、この前ちょっと外ではずしたら、その辺歩いてるおっさんに切れられたんだけど。
モ２　いるいる、マスク警察。
モ３　じゃあ、マスクを外して見せ合うってことで。
サキ　ちょっと待って、今日もメイクしてないんだけど。
モ３　大丈夫大丈夫、誰もメイクしてないから。
モ４　ウチら女子力０か。
サキ　私は、ちょっと・・・。
モ３　じゃあ、私からいきまーす。

モブ３がマスクを外していく。

モ全　おー。
モ４　かわいー。
モ３　ホント？ありがと。
モ２　じゃあ、次私ね。

モブ全員がマスクを外し、周りのモブがリアクションをとる。
サキだけがマスクをした状態となる。
サキを取り囲むように、マスクを外したモブがいる。

モ４　あれ、サキまだ外してないの？
サキ　え、だって・・・。
モ３　ねぇ、なんで外さないの？
サキ　いや、私は・・・。
モ２　サキだけ外さないのずるくない？

サキ　いや、その・・・。
モ１　ウチら友達でしょ？
サキ　私、マスクは・・・。
モ全　ねぇ、ねぇ、ねぇ、ねぇ・・・。

サキはモブの（同調）圧力に押されていく。

サキ　ごめん！

サキがオンライン授業からログアウトする。
モブ１～４が静かに去っていく。
オンライン授業に来なくなった小森を心配した先生は、小森の母親に連絡をとる。

現実（先生と母親の電話）

先生　小森さん、体調はいかがですか？
母親　まだあんまり良くないみたいで、自分の部屋から出てこられないんです。
先生　熱とかは？
母親　いえ、熱はないみたいなんですけど。
先生　そうですか。
母親　ご心配おかけして、申し訳ありません。
先生　いえ。
母親　・・・。
先生　・・・。
母親　中学校のときも、こういう時期があって。
先生　はい。
母親　そのときは卒業直前だったので、学校に行かないまま卒業してしまったんですけど。
先生　そのときと同じような雰囲気ですか？
母親　そうですね。今回は入学したばっかりなので。
先生　ちょっと心配ですね。
母親　はい。
先生　オンライン授業も長引いているので、心の調子を崩す生徒も増えているみたいです。
母親　そうですか。
先生　誰も経験をしたことがないものですから。
母親　・・・。
先生　あまり無理せず、自分のペースで大丈夫だと思います。課題は提出されているようですので。
母親　はい。
先生　学校にできることがあれば言ってください。スクールカウンセラーもいますので、なにかアドバイスができるかもしれません。
母親　ありがとうございます。必要があれば、またご相談します。

先生　私は、小森さんにクラスで会えるといいなぁって思ってます。
母親　・・・。
先生　オンラインでは顔を見てましたし、声も聞いてましたが、やっぱり直接会って話がしたいなぁって思ってます。
母親　そうですか。
先生　あ、でも、決して無理して学校に来いってことではありません。
母親　はい。
先生　少し休むことも必要だったりしますので。
母親　はい。
先生　うまく言えなくて申し訳ありません。
母親　いえ。
先生　小森さんにもよろしくお伝えください。夜遅い時間に失礼しました。
母親　ありがとうございました。
先生　では、失礼します。

その夜、サキは今日の出来事を小森に報告する。小森だったらサキの行動に賛同してくれるだろうという想いから。

連絡を受けた小森は、この前の炎上の件もあり、サキと話すことを少し警戒していた。

LINE（トーク？）

サキ　小森さん、来週から学校始まるって聞いた。
小森　うん、さっき学校からメール来てた。
サキ　ようやく会えそうだね。
小森　・・・そうだね。
サキ　でさぁ、ちょっと聞いてよ。
小森　・・・どうしたの？
サキ　今日、帰りのHR終わってから友達と話してたんだけど。
小森　うん。
サキ　学校が始まる前に、お互いの素顔見ておこうって話になって。
小森　うん。
サキ　いきなりマスク外しだしたの。
小森　うん。
サキ　私この前も言ったけど、マスク外した自分の顔嫌いだから拒否ったんだけどさ。
小森　・・・。
サキ　そしたら、「なんでサキだけ外さないの」みたいな感じで言われちゃってさ。
小森　それで？
サキ　いや、ありえないなぁと思って。
小森　そう。
サキ　まぁ、そんなに気にしてるってことじゃないんだけど、でも、嫌なものは嫌というかさ。

小森　・・・。
サキ　人それぞれ事情があるわけじゃん。
小森　・・・。
サキ　なんかなあと思って。
小森　・・・。
サキ　小森さん？
小森　なんで？
サキ　？
小森　なんで自分はマスク外すの嫌なのに、あのツイートにはイイねしたの？
サキ　え？
小森　その人だって、その人の事情があって言ったって考えないの？
サキ　どうしたの、急に？
小森　中島さんはいいよね、美人だし、明るいし、友達多いし。
サキ　小森さん？
小森　でも、そうやって人によって意見変えるのはどうかと思う。
サキ　・・・。
小森　なんで私に連絡してきたの？私だったら否定しないで聞いてくれるって思ったの？
サキ　別にそういうわけじゃ。
小森　どうせ中島さんもみんなと一緒で私を晒そうとして楽しんでたんでしょ？
サキ　え？
小森　あのツイートにはちゃんと続きがあった。「私は、コロナが流行って、少し良かったって思う。だって、あんなに辛い学校に行かなくて済んだんだから。」
サキ　・・・。
小森　私は中学の最後の方は全然学校に行けなかった。私がした失敗を、周りの友達だと思っていた人たちが無責任に笑い者にした。
サキ　・・・。
小森　すごい辛かった。それを誰かに話しても「そんなこと」って鼻で笑われた。
サキ　・・・。
小森　でも、学校に行くのは嫌いじゃなかったから、高校では頑張ろうって思った。
サキ　・・・。
小森　中学でやってた吹奏楽も一生懸命やりたかった。高校合格したからって新しい楽器も買ってくれて、それで・・・。
サキ　・・・。
小森　行事だって、中学ではできなかった文化祭とか楽しみにしてた。クラスだって・・・。
サキ　・・・。
小森　自己紹介で「もふまる」の話をして、なんとか友達作ろうって頑張った。中島さんが話しかけてくれたとき、すごい嬉しかった。ああ、こんな素敵な人が私に話しかけてくれてるって思って。
サキ　・・・。

小森　でも、中島さんもあのときの友達と一緒で、結局私を晒し者にして笑ってるだけだった。
サキ　ちがうよ。
小森　ちがわない。
サキ　ちがうよ。
小森　ちがわない！じゃあ、なんで最後まで読んでないの？なんで一部分だけ切り取って晒し者にしたの？そんなの、中島さんが嫌だって言ってた「口裂け女」のときと一緒じゃん。
サキ　・・・。
小森　・・・。
サキ　ごめんね。
小森　・・・。
サキ　ごめんなさい。
小森　・・・もういい。

小森は、興奮した気持ちが少し冷めていくのを感じて、LINEを一方的に切る。
サキは小森の言葉を聞いて茫然自失としている。

オンライン授業

先生が固まっているサキに呼びかけている。他の生徒はすでにログアウトしている。

先生　おーい、中島ー。おーい。
サキ　・・・。
先生　フリーズしてんのー？
サキ　・・・あ、はい！
先生　あ、聞こえてる？
サキ　はい。
先生　さっきから号令お願いしてたんだけど、全然反応がなくて、先にHR終わっちゃったから。
サキ　すいません。
先生　中島もなんか電波出してるんじゃないの？
サキ　・・・。
先生　長かったオンライン授業も終わりだね。
サキ　そうですね。
先生　ようやくパソコンの操作にも慣れてきたんだけどなぁ。
サキ　最近全然フリーズしなくなりましたもんね。
先生　でしょ。人間進歩するものだね。
サキ　ですね。
先生　中島はどうだった？
サキ　何がですか？
先生　オンライン授業。
サキ　えっと、最初は慣れなかったけど、だんだん楽しくなってきました。

先生　そっか。友達できた？
サキ　あ、はい、一応。
先生　クラスの子とも連絡とったりしてるの？
サキ　はい。授業のわかんないところとか相談したりして。
先生　今の若い子はすごいねえ。
サキ　そうですか？
先生　他の先生とも話してたんだけど、みんなやっぱりそういうのに慣れてるんだね。パソコン世代というかなんというか。
サキ　・・・。
先生　授業やってても、最初よりも意見交換とか活発になってる気がするしさ。仲がいいことは良いことだ。
サキ　・・・。
先生　そういえばさ、小森からなんか連絡とか来てない？
サキ　え？
先生　ほら、最近小森、授業に顔出さなくなっちゃったじゃん。中島なら何か知ってるんじゃないかなと思って。
サキ　いや・・・、別に・・・。
先生　そっか。
サキ　・・・。
先生　来週から学校始まるし、みんなに会えるといいんだけどな。
サキ　あの、小森さんって。
先生　ん？
サキ　いえ・・・その・・・、あ、中学の部活、スゴかったんですか？
先生　小森？よく知ってるね。大会でも賞とったりしてたみたいだよ。
サキ　・・・。
先生　大学は音大に行きたいって言ってたし。
サキ　・・・。
先生　どうかした？
サキ　いえ、大丈夫です。
先生　そういう話もするんだね。
サキ　あ、はい。
先生　こういうの生徒に頼むのもあんまり良くないんだろうけど、中島からも小森に連絡してみてくれない？来週から学校だよって。
サキ　私は・・・。
先生　・・・だよね。いくら友達でも、状況わからないと言いにくいよね。ごめん、今のなし。聞かなかったということで。
サキ　私、小森さんとは・・・。
先生　どうしたの？

サキ　友達というか・・・。
先生　あれ、違った？
サキ　・・・。
先生　小森が言ってたんだけどな、よく連絡とるって。
サキ　・・・。
先生　この前も、中島の話したとき、嬉しそうにしてたよ。
サキ　！
先生　早く会えるといいなぁって言ってたし。
サキ　・・・。
先生　あれ、言ったのは私か。いや、でも、小森も会いたいオーラが出ていた気がしたし。
サキ　・・・。
先生　中島と小森が仲いいって最初は不思議な気がしたんだけどね。雰囲気全然違う感じがしてさ。
サキ　・・・。
先生　でも、そういう人が仲良くなるのが、学校のいいところだよね。
サキ　そう、ですね。
先生　じゃあ、小森には私から連絡しておくから。
サキ　・・・はい。
先生　中島も体調に気をつけてね。
サキ　はい、ありがとうございました。
先生　じゃあねー。

先生、サキ、オンライン授業からログアウトする。
サキはその場に一人残り、小森のことを考えている。
母親が小森の部屋の扉をノックする。

現実
母親　みゆき？

小森は扉越しに返事をする。

小森　なに？
母親　大丈夫？
小森　なにが？
母親　来週から学校始まるからね。
小森　知ってる、メール来てたし。
母親　登校時間少し遅いみたい。あと、検温とマスクしてきてねって。
小森　だから知ってるって。
母親　・・・。
小森　・・・。

母親　どう、調子は？
小森　・・・。
母親　辛かったら無理することないからね。
小森　・・・。
母親　・・・。
小森　お母さんは、私に学校に行って欲しいの？それとも行って欲しくないの？
母親　・・・。
小森　もういいから、ほっといてよ。
母親　ご飯できたらまた呼ぶから。
小森　・・・。

母親、心配そうに立ち去る。
数日が経ち、日曜日の夜。
「もふまる」の配信が流れてくる。二人は、それをぼんやり聞いている。

Twitterなど（小森のアカウントには鍵がかけられている）

もふ　みなさんこんばんは。今日からライブ初日。本当だったら、みなさんと熱く盛り上がっているところでした。ですが、残念なことに、感染はまだ収まっていません。なので、こうして画面の前から皆さんに呼びかけています。ライブ中止になって、本当に申し訳ありません。楽しみにしていたよ、という声もたくさん届いています。でも、今は皆さんや皆さんの友達の命が一番大切です。この状況をなんとかしようと頑張っている医療従事者の方もいます。今はちょっとだけ我慢して、盛り上がれるようになったら、ぜひ、みんなで全力で盛り上がりましょう！
二人　・・・。
もふ　といっても、一人じゃ我慢するのが辛いっていう人もいるかと思います。そこで、今度無観客ライブの配信をやろうと思います！
二人　・・・。
もふ　今、一生懸命頑張っている人のため。今、少しだけ元気をなくしている人のため。そんな人たちのために、一生懸命歌います。こんな状況だからこそ、僕にできることを前向きに取り組んでいこうと思います！

ネットには、もふまるの無観客ライブを喜ぶ声があがる。

声5　もふまる無観客ライブやるってさ！
声4　どこ情報？
声3　公式で発表してた。
声2　まじで。
声1　いつ？
声5　来月の27日だって。
声4　うおー、興奮してきた。

声３　地方民にとってはまじで助かる。
声２　それな。
声１　コロナ様様。
声５　はい、不謹慎乙。

現実

サキと小森はそれぞれ自分の考えをつぶやいていく。
時折、二人のやりとりが思い出される。

サキ　推しが無観客ライブの配信やるみたい。
サキ　楽しみにしていたライブは中止になっちゃったけど、配信が見られるならいいかな。
サキ　でも、やっぱりライブ見に行きたかったな。・・・新しくできた友達と。

小森　明日から学校が始まる。
小森　学校なんかなくなればいいのに。
小森　せっかくできた新しい友達も、会う前にいなくなっちゃった。
小森　私が全部悪いんだけど。
小森　なんであんな風に言っちゃったんだろう。

サキ　「もういい」の一言が私の耳から離れない。
サキ　怒っているような、泣いているような、軽蔑しているような。
サキ　私は何て言えばよかったんだろう。
サキ　「ごめんなさい」としか言えなかった。

小森　別に謝ってほしいわけじゃなかった。
小森　あの人が謝らなきゃいけない理由なんかどこにもない。
小森　私が勝手に怒って、勝手に泣いて、勝手に軽蔑しただけ。
小森　あの人は悪くない。

サキ　私は、自分のことしか考えていなかった。
サキ　自分がされて嫌だったことを棚に上げて、その人にひどいことしちゃった。
サキ　「ごめんなさい」って言った後、もっとちゃんと話を聞けばよかった。
サキ　きっとあの話には続きがあった。

小森　怖かった。恥ずかしかった。情けなかった。
小森　私と違って美人で明るくて友達も多いあの人を、自分一人が勝手に友達だと思い込んでいたんじゃないかって。
小森　一人で浮かれていたんじゃないかって。でも、そんな風に思ってしまうくらい、私は嬉しかった。

小森　色々な話ができて、色々な話が聞けて。

サキ　最初は推しの話。思った以上に趣味が合ってビックリした。
サキ　学校の話もした。将来のことも聞いた。やりたいことがあるのは羨ましいって思った。
サキ　素直にすごいなって思った。
サキ　マスクの話をしたら、そのままでいいんだよって言ってくれた。

小森　嬉しかった。もっと頑張ろうって思った。直接会ったらもっとたくさん話がしたいなって思った。
小森　だから、「イイね」の文字を見つけたとき怖くなった。
小森　裏切られたって思った。でも・・・。

サキ　「私は、コロナが流行って、少し良かったって思う。だって」
小森　一部分だけ切り取っていたのは私のほうだ。
サキ　この状況だったから、私はその人と友達になれたのかもしれない。
小森　結局は私も、私が嫌いなあの人たちと一緒だ。
サキ　もう一回、ちゃんと謝って、ちゃんと話がしたいな。
小森　顔を隠した誰かじゃなく、友達だよって言ってくれたあの人ともう一回ちゃんと話がしたい。
二人　それで、もう一回友達になりたい。

去っていくサキ。
小森の扉をノックする母親。

母親　みゆき、ご飯できたよ。

少し戸惑いながらもその声に応える小森。

小森　・・・お母さん。
母親　どうしたの？
小森　この前はごめんなさい。
母親　・・・別にいいのよ。
小森　明日から学校始まるから。
母親　うん。
小森　朝起きれないと嫌だから、起こしてもらっていい？
母親　ええ。
小森　ありがとう。

暗転。

場面は現実の教室。
長かったオンライン授業が終わり、ようやく学校が始まる。

現実の教室

一足早く教室に着いたサキ。小森の座席を確認するも、小森は来ていない。
少し間を置いてから、小森も教室へやってくる。

サキ　小森さん・・・。
小森　中島さん・・・。

二人を微妙な沈黙が包む。

二人　ごめんなさい！

同じ言葉が出て驚く二人。

サキ　私、あのとき小森さんがなんであんなに怒っていたのかわからなかった。「イイね」をしたのは私だけじゃないのに、なんでそんな風に言われなくちゃいけないんだろうって思った。「ごめんね」って気持ちもあったけど、それ以上に「なんで」って気持ちの方が強かった。そこから何も言葉が出てこなくなった。でも、それがダメだったのかなって。わからないんだったら、もっとよく話を聞かなくちゃダメだったんじゃないかなって思って。

小森　・・・。

サキ　その前の教室での出来事もそう。マスクのことがあって、周りが嫌になっちゃって。私ばっかり話しちゃって、小森さんのことなんか考えてなかった。友達を自分の都合のいいように使おうとしてた。そのままでいいって言ってくれた友達を。だから・・・。

小森　・・・。

サキ　ごめんなさい。

小森　・・・。

サキ　・・・。

小森　私も、たくさんの「イイね」の中に中島さんの名前を見つけたとき、「なんで」って思った。なんで中島さんが私を苦しめるの？友達だったんじゃないのって思った。だから、中島さんから連絡があったとき、話を聞きたかった。私中島さんに悪いことしたかなって？でも、なかなかそれが言えなくて。中島さんの話を聞いているうちに、「なんで」って気持ちがどんどん強くなって。

サキ　・・・。

小森　私は中島さんが羨ましかった。自分とは全然違う人で、毎日とても楽しそうだった。そんな話を聞くのがとても楽しかった。だから私の話も聞いてほしかった。私のこともっと知って、それでどうすればいいのか教えてほしかった。わがままかもしれないけど、私は弱くて臆病な人間だから、一緒になって考えてほしかった。だから・・・。

サキ　・・・。
小森　ごめんなさい。
サキ　・・・。
小森　「私は、コロナが流行って、少し良かったって思う。」
サキ　・・・え？
小森　こんな状況だったから、私は中島さんと話すことができた。
サキ　・・・うん。
小森　でも、こんな状況だったから、お互いの顔がよく見えなくて、ごちゃごちゃになっちゃったのかもしれない。
サキ　・・・。
小森　もう、たぶん、大丈夫。今こうして中島さんの顔を見ながら話ができて、私はもう、大丈夫だから。
サキ　・・・あの時した約束覚えてる？
小森　約束？
サキ　学校で会ったらさ、今度は名前で呼び合おうってやつ。
小森　うん。
サキ　今呼んでもいい？
小森　え。
サキ　だって、私たち友達でしょ。
小森　・・・うん
サキ　みゆき。
小森　・・・サキ。

二人は照れくさそうに笑う。

サキ　実は、私も同じこと考えてた。
小森　？
サキ　こんな状況じゃなかったら、ってやつ。
小森　そうなんだ。
サキ　うん。
小森　でも、サキだったら、私と友達にならなくてもきっと楽しい高校生活だったと思うよ。
サキ　そんなことないよ。
小森　そうかな。
サキ　こんな状況じゃなかったら、こんな風に色々話せなかった、たぶん、ぜったい。
小森　・・・。
サキ　みゆき、ありがとね。
小森　うん

モブが教室に入ってくる。

モ２　サキ？
サキ　！
モ２　おはよう。
サキ　おはよう。
モ２　（小森に向かって）おはよう。
小森　！おはよう。
モ３　おはよう！席ここかな？
サキ　あ、多分そこだと思う。
モ３　ありがとう。
モ４　おはよう。
モ２３　おはよう。
モ４　みんな来るのはやいね。
モ２　あ、そうかな？
モ４　私が１番だと思ったー。
モ２　あはは～。
モ６　おはようー！
モブ　お、おはよう。
モ４　あ、課題やった？
モ３　やばいやってない。
モ６　やばいじゃん！
モ３　まだいけるいける。
モ２　明日小テストだよ。
モ４　あー！入学おめでとうテストでしょ？
モ６　名前やばない？
モ４　それなー。
モ３　なにそれ？そんなのあるの？！
モ２　うん。２、３０ページくらいあるよ。
モ３　まじ？もう間に合わないじゃん・・・よし！諦めよう。
モ４　いやまだがんばりなよー。
モ３　そもそも単語帳どっかいったわ。
モ６　仕方ない、私の貸してあげるよ。
モ３　神ー！
モ２　仲良くなるの早すぎじゃない？
モ４　私今日、学校来るときめっちゃ不安だったよー。
モ２　だよねー！私も。
モ６　てか部活どうする？

モ２　私はバイトするから帰宅部かなー。
モ４　私は楽そうだからどっかのマネやろっかな。
モ３　めっちゃキツイってお姉ちゃんが言ってたよ。
モ４　えー、じゃあやーめた！
モ３　やっぱりテキトー。
サキ　みゆきはもう決まってるよね？
小森　うん、吹奏楽部。
モブ　へー。
モ６　みんな想像通りって感じだわー。
モ２　なんなら思ったより話しやすくてよかった。

騒がしい音を立てながら、モブ１もやってくる。

モ１　おはよ！
サキ　おはよー。
モ２～４　おはよ。
モ１　先生はまだ？
サキ　そうみたい。
モ１　セーフ。
サキ　オンラインの時とやり取り変わんないね。
モ１　ですねー。
モ２　電車空いてると思ったら、めちゃくちゃ混んでなかった？
モ３　混んでた。
モ４　テレワーク推進してんじゃないの？
モ３　うちのお父さんも今日から出勤だってさ。
モ１　また流行っちゃうんじゃないの？
モ２　そしたらまたオンライン生活かぁ。
モ３　やだねー。

チャイムの音。
先生が教室に入ってくる。

先生　おはようございます。
全員　おはようございます。
先生　ようやく、みんなと会うことができました。２ヶ月にわたるオンライン生活、お疲れ様でした。
まぁ、これからまた感染が拡大したら、オンライン生活に戻っちゃうかもしれないけど、そうならないように手洗いと消毒、マスクはしっかりしましょうね。
モ３　フリーズしないカトセンって新鮮じゃね？

先生　はいはい、そこ！聞こえてるっての。
モ３　マイクオフ機能がほしい。
先生　この２ヶ月、本当に大変だったと思う。慣れないオンライン授業、始まらない学校生活、会えない友達。これから先、行事だってどうなるかわからない。周りの人がコロナにかかって辛い思いをした人もいるかもしれない。でも、もしかしたら、この状況だからこそできたことっていうのもあるんじゃないかな？
モ４　えー、そう？
先生　オンライン授業とかもそうだと思うよ。
モ２　カトセン、嫌だって言ってたじゃん。
先生　まあね。でも、実際にやってみると、授業が記録として残るのは振り返りに使えるし、普段しゃべらない生徒も、オンラインだったら意外と意見言ってくれたり。新たな発見もあったかな。
モ２　へー。
先生　あとは・・・、一日一日がとても大切なんだなぁって思えるようになったことかな。
モブ　？
先生　今までは、「明日」っていうのは何もしなくても当たり前に来るものだって思ってたけど、当たり前に来る明日っていうのは、みんなが頑張った積み重ねの結果なんじゃないかなって、思って。みんながマスクつけたり、消毒したりして頑張った結果、こうして直接会えたんじゃないかなって。
モブ　・・・。
先生　まぁ、大変な状況には変わりないし、この状況で一生懸命闘っている人もたくさんいると思うけど、私たちには、今、私たちにできることを前向きに取り組んでいくしかないんじゃないかな。
モ１　カトセン、めっちゃいいこと言いますね。
モ２　やっぱ、直接会うと違うなぁ。
先生　でしょー。

チャイム。

先生　あ、朝の HR 終わっちゃう。じゃ、そういうことで、今日から改めて、よろしくおねがいします！中島、号令。
サキ　気をつけ、礼。
全員　ありがとうございました！

何人からの生徒が自分の席から立ち上がり、周りの友達と楽しそうに話し出す。
サキは小森の席に近づいて、嬉しそうに話しかける。

サキ　あ、そういえば、ライブ配信いつやるか見た？
小森　見た見た。来月の 27 日だって。
サキ　一緒に見ない？

小森　どうやって？
サキ　うちで。
小森　お母さんに聞いてみる。
サキ　よろしく。

二人を暖かい雰囲気が包む。

小森　・・・マスク似合ってるよ。
サキ　そう？ありがと。
小森　うん。
サキ　「私、きれい？」
小森　うん。

サキ、おもむろに自分のマスクを外して小森に顔を見せる。

サキ　これでも？
小森　うん。

先生、マスクを外しているサキを見つける。

先生　こらー。さっき言ったでしょ。感染防止のためにマスクは必ずつけろって。

サキ、先生に注意をされいたずらっぽく微笑む。

サキ　はーい、すいませーん。

サキ、マスクを再びつける。

小森　怒られた。
サキ　みゆきが悪い。
小森　えー、そんなことないよ。
サキ　みゆき。
小森　ん？
サキ　これからもよろしくね。
小森　うん。

終わり。

※1
出典：イベントの開催に関する国民の皆様へのメッセージ（厚生労働省）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/newpage_00002.html を加工して作成